

第4回
新型コロナウイルス感染症の
感染動向の推移を評価する打合せ会
専門家の意見

新型コロナウイルス感染症の感染動向の推移を 評価する打合せ会における専門家の意見①

新型コロナウイルス感染症患者の増加が続いています。病床利用率が**80%**に達した医療圏もあります。

PCR陽性率が10%を超えています。このような、分母と分子がある指標の評価は難しいです。懸念されることは、必要な人に必要な検査ができていないことです。すなわち、診断されるべき新型コロナウイルス感染症患者が診断されないでいる可能性があります。

変異株については、約**58%**がデルタ株（インド株）です。デルタ株の感染力、病原性を直視することが重要です。従来は、重症化しにくいといわれていた**20-40**歳代からも重症患者がでています。

65歳以上のワクチン接種率は約**73%**（2回目接種）となり、高い接種率が示されました。

著しい患者数の増加を受けて、千葉県の医療態勢はフェーズ**4**となりました。新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを行うためには、救急医療はじめ通常医療の縮小が現実に行われようとしています。

これまでの感染対策で最も効果的であったのは人流を抑制することです。残念ながら人の移動は抑制されていません。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制するためにも、不要不急の移動を是非我慢してください。

新型コロナウイルス感染症の感染動向の推移を 評価する打合せ会における専門家の意見②

現状の評価と今後の見通し

- ・他の関東圏の地域と同様に、千葉県内での感染者数が更なる勢いで急増している。
- ・現在がピークとは考えにくく、今後も感染者数は増加し続けると予想される。
- ・新規感染者の90%以上を50代以下の患者が占めている。
- ・入院患者に占める高齢者の割合は依然低い状態であり、ワクチン接種の有効性が非常に高いことが示唆される。
- ・中等症患者の入院数の大幅な増加に伴い、重症患者数も急増しはじめている。
- ・受け入れ先が見つからず、入院できない事例、転院できない事例が増えている。
- ・既に一般医療への影響が出始めており、この勢いで感染者が増えると、他の病気の手術や入院治療にまで大きな影響を与える可能性が高い。

必要な対策

- ・救急搬送困難事例のデータなども利用して、一般住民に対して医療現場の逼迫状況を伝え、感染者を減らすための更なる協力を依頼する。
- ・流行の中心である若年層に響くように、具体的なメッセージ（同居家族以外とは一緒に食事をしない、出かけない、数人以上では集まらない等）を適切な媒体で伝える。
- ・酸素投与が不要で退院可能な場合には、療養解除期間前でも速やかに自宅療養に切り替え、確保病床を入院優先度の高い患者のために使用する。早期退院方針について、行政サイドから県民への説明と協力依頼をお願いしたい。
- ・パルスオキシメーターの配布、在宅酸素導入の準備、入院待機酸素ステーションの設置等、急増する在宅療養患者のケアを行う仕組みを早急に整備する。
- ・高齢者だけでなく、若い世代にワクチン接種を行うことが、流行拡大抑制に有効と考えられるため、可能な限り速やかにワクチン接種を進める。